

青葉区通町地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 10 月)

当地区は、仙台市役所から北方約 2 km圏内、北山五山の南側に位置し、旧奥州街道沿い（青葉神社通り）や新坂通り、木町通り、主要街道の勾当台通りなど、古い町並みの残る地域です。

市営住宅があったり、新しいマンションが建ちはじめ、古くから住んでいる人びとと、マンションに住む新しい住民とが半数ずつ、最近ではむしろ新しい住民が多くなり、昔ながらの風情が薄れつつあるのが現状です。

私たち民児協では、調査や地域の見守りのほか、地区の社会福祉協議会の運営スタッフの中心的な役割を担い、毎月一度『生き生きサロン』の企画、運営（各月ごとに様々な講師を招き手取り足取りのサロンの開催）、『子育てサロン』の企画、運営（現在子育て中の親子育児相談など）に携わっています。

また、年に一度、地区内の高齢者と一堂に会し、食事会をしながら親睦をはかる『ふれあい会食会』も企画しています。この企画には、東日本大震災で被災され、みなし仮設住宅に入居しておられる方がたにも参加を呼びかけています。来年度には通町地区内に復興公営住宅が完成し、入居する方がたとの交流の場になればと思っています。

日本赤十字社の献血の呼びかけや赤い羽根共同募金の協力などにも参加しております。

地区民児協の研修会は秋に一泊研修を行ない、今年は東京を訪れ、日本赤十字本社や鎌倉を視察、また地区委員の方がたとの研修では「日赤この一年」や「簡易救急法」などの研修を受けています。

小学生との関わりもあります。通町小学校を訪問し、「昔あそび」を子どもたちと一緒にこなっています。恒例行事になり、子どもたちも、私たちとの「昔あそび」を楽しみにしてくれています。最近では、子どもたちの方が覚えが早く、私たちに要領を教えてくれるほどになりました。

地区民児協の課題としては、東日本大震災や最近多い大洪水被害などが発生した場合の避難所開設時の対応です。もともと自然災害の少ない地域なので、避難所を開設するという実感がわきません。東日本大震災発生時でも町内の見回りをすると、あまり被害も見当たらず、避難所開設はなしと思っていたところ、高層マンションのエレベーターが止まり、その住民の多数が避難所を利用しました。当時の避難所には非常食もほとんどなく、支援物資もなかなかこないほか、ガスボンベなどの非常用火器もなく、避難所自体が機能していませんでした。校長先生の機転でその場の対応はできましたが、日頃の準備や訓練の不足さが出たと思います。民児協のメンバーの役割などを含め、地域の方がたと連携し、スムーズな対応ができるようになればと考えています。